学校編　家庭編　地域編

メニュー

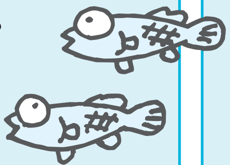
コンテナ・ビオトープでミニ環境学習

効果

- ●狭い場所でもベランダでも、簡単にビオトープを作って生物の観察や、環境学習を実施することができる。
- ●コンテナの中に生命が宿る様子を見て、自然の不思議を感じることができる。

実践方法

❶プラスチック製のコンテナを用意する。
※ホームセンターなどで購入できる。
※大きさや深さなどは任意で可。



❷庭やベランダなどに置いておく。
※風で飛ばないようにする。
※水や土などを入れておいても良い。

❸そのまま置いておき、中の変化を観察する。
※雨水が溜まったり、風で砂が入ったりしながら、少しずつ変化が見られる。

❹植物の種が入って芽が出たり、トンボが卵を産んだりして、ビオトープの中に生命が生まれる。
※ボウフラがわかないように、最初からメダカ等を入れておく方法もある。

事例紹介等

●庭に置いたコンテナ･ビオトープの例（メダカ用のビオトープ）

●学校にあるビオトープでの学習の例

問い合わせ先

●島根県教育庁義務教育課
TEL 0852-22-5421

●島根県教育センター
TEL 0852-22-5853

●宍道湖自然館ゴビウス
TEL 0853-63-7100

【参考文献】
◦21世紀を生きるきみたちの環境学習（環境学習プログラム小学校中学年～高学年編第3章「平地で学ぶ」から、「生き物のすみかを考える」を参照）
URL:http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/education/puroguramu2.html

メニュー「おすすめの本」を読んで、りんごの樹に実をつけよう！

効果

- 読書への興味を高めることができる。
- 感性・情緒をはぐくむことができる。

実践方法

- 各学年でおすすめの本を教員が20冊選定する。選書の際には、各学年で読み継がれている本を基本に、詩、昔話、古典、絵本、写真の本、新しい本も入るように配慮する。
- 選書した本から10冊を「赤いりんごシリーズ」と、さらに10冊を続編の「金のりんごシリーズ」と名付けて、子どもたちにリストを渡す。
- 10冊読み終えたところで、子どもたちは「りんごカード」に自分の名前を書いて、図書館前の「読書の樹」に赤または金のりんごの絵を付ける。同時に、認定の賞状を渡す。

事例紹介等

金のりんごシリーズ
6年　　組（　　　　　　　）

おすすめの本 Ⅱ

	書　名	ひと言感想	読了した日
1	おーいぽぽんた　茨木のり子　編		
2	イギリスとアイルランドの昔話　石井桃子　編		
3	トムは真夜中の庭で　フィリパ＝ピアス		
4	クローディアの秘密　E・L・カニグズバーグ		
5	エミールと探偵たち　エーリヒ・ケストナー		
6	グリッグの冒険　斎藤惇夫		
7	西の魔女が死んだ　梨木香歩		
8	ヘンリー・ブラウンの誕生日　エレン・レヴァイン		
9	アラスカたんけん記　星野道夫		
10	ファーブル昆虫記　アンリ＝ファーブル		

おすすめ図書10冊について、ひと言感想を書く。

問い合わせ先

- 島根県教育庁義務教育課
  TEL 0852-22-5421
- 松江市立宍道小学校
  TEL 0852-66-0352
- 「子ども読書県しまね」のホームページ
  http://www.lib-shimane.jp/sinkodomodokusyoken/kodomodo_kusyoken_shimane.html

メニュー

幼児教育と小学校教育の連携

学校編　家庭編　地域編

効果

- ●幼児期の教育と小学校の教育の段差が小さくなり、子どもの生活の変化への不安等を減らすことができる。
- ●教職員間の交流、相互理解が進む。
- ●幼児が近い将来を見通したり、児童が自分の成長に気付いたりする。

実践方法

●子ども同士の交流

- 活動を教育課程に位置付ける。
- 目標について、指導者が理解し合う。
- 相互の計画を対応させながら立案する。
- 事前の活動、交流活動、事後の活動を設定する。

●接続期のカリキュラムの連携

- 小学校入学までに身に付けたい力を確認し、保育·教育の在り方を工夫する。

●指導者の相互理解

- 子ども同士の交流のための相談を行いながら、理解を進める。
- 子どもについての情報交換会や勉強会を行う。
- 保育や授業を通した研修を進める。

●家庭、地域との連携

- 入学に対する不安を解消したり、小学校生活に向けた子どもの生活を考えたりできる場や情報を提供する。

事例紹介等

●学びのスタイルをつなげていく『忌部ひみつ地図』

小学校での学びのサイクル	ひみつ地図における学びのサイクル
①心を動かす	「あれ?なんだろう」と秘密をみつける
②やってみる	試したり、工夫したり、しらべたりする
③わかる(表現する)	みつけたひみつをみんなに発表(表現)する
④振り返る	さらにひみつをみつけようと工夫する

①へ

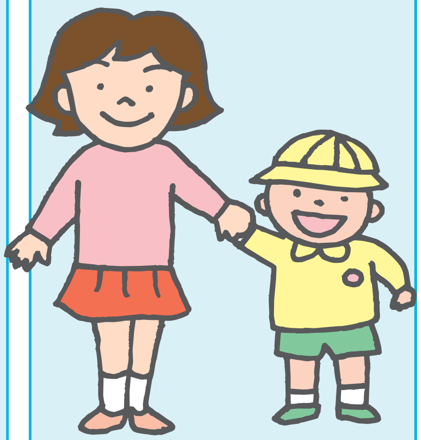
※小学校の学びのサイクルを意識して、幼児教育を行うことで、自ら課題をみつけ友だちと共に解決していく学習意欲や、教科学習における学びのあり方につなげる。

問い合わせ先

●島根県教育庁義務教育課
TEL 0852-22-5421

●松江市立忌部幼稚園
TEL·FAX 0852-33-2001

●松江市立忌部小学校
TEL 0852-33-2017



メニュー

竹島博士になろう！

学校編　家庭編　地域編

効果

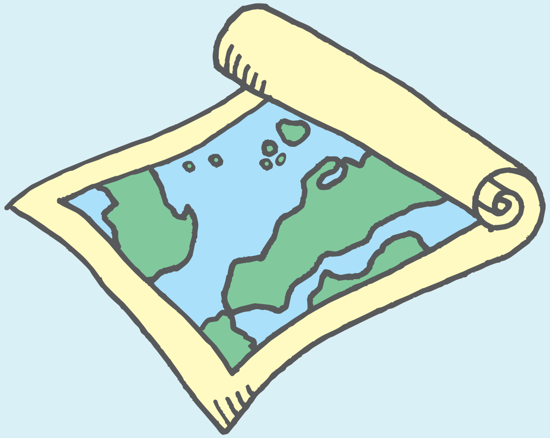
●竹島のことや竹島領土問題について詳しく知ることができる。

実践方法

●竹島資料室で調べる。

●ホームページで調べる。

●竹島に関するDVDで調べる。



事例紹介等

●竹島資料室（松江市殿町　旧博物館）

●Web竹島問題研究所ホームページ
http://www.pref.shimane.lg.jp/soumu/web-takeshima/

●外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/

●「竹島学習副教材DVD」
（島根県／島根県教育委員会／竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議）

●「竹島　かえれ島と海2009」（DVD）
（島根県）

問い合わせ先

●竹島の資料について
竹島資料室
TEL 0852-22-5669

●竹島学習について
島根教育庁義務教育課
TEL 0852-22-5421

学校編　家庭編　地域編

メニュー

地域安全マップで子どもと地域を守る！

効果

- 子どもや地域の『犯罪に遭わない力』が育つ。
- 地域の人たちと関わることで、コミュニケーション能力が育つ。
- 地域への関心や愛着が生まれる。

実践方法

❶マップづくりの事前学習

- ねらいを確認する。
  『犯罪が起こりやすい場所を示した地図を作ろう』
- 危険な場所の視点を考える。
  「（だれもが）入りやすい場所」と
  「（だれからも）見えにくい場所」など

❷地域の探検（フィールドワーク）

- グループで、危険な場所をチェックしながら探検する。
- 地域の人にインタビューする。

❸地域安全マップの作成

- 模造紙に写真を貼るなど工夫して分かりやすい地図を作る。

❹地域安全マップの発表会

- 発見したことや感じたことを多くの人に伝える。

事例紹介等

●西ノ島町立浦郷小学校

- 警察署の人や大学生さんと一緒に地域安全マップを作成する。
- 地域安全マップの発表会を保護者や地域の人の前で実施する。

●浜田市立佐野小学校

- 子ども安全センター等の関係機関と連携して実施する。
- 実践方法の❶❷と❸❹を2日間に分けて全校で取り組む。

※HP　http://www.hamada.ed.jp/sano/

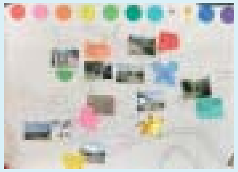
●雲南市立木次小学校

- 地域の見守りボランティアの方が中心となって毎年継続的に実施する。

参考：「地域安全マップ作製マニュアル」

問い合わせ先

●西ノ島町立浦郷小学校
TEL 08514-6-0404



●浜田市立佐野小学校
TEL 0855-42-0689

●雲南市立木次小学校
TEL 0854-42-1113

学校編 家庭編 地域編

メニュー

地域での豊かな体験活動

効果

●こころが育つ。 ●意欲が高まる。 ●コミュニケーション能力が高まる。 ●ふるさとのよさを再発見する。
●学力が高まる。 ●人の話を集中して聞ける。 ●自分自身をみつめる。

実践方法

●活動前
次の事項について留意する。
①ねらい、計画等
②事前指導
③組織づくり
④健康管理、安全確保
⑤保護者への理解と連携
⑥地域ボランティアや指導員等との連携

●活動中
- 意欲が高まるような声かけを行う。
- 振り返りを行い、記録に残す。

●活動後
- 自分の成長に気づかせる指導を行う。
- 「書く」活動等と結びつけ、教科等との関連を図る。
- 学校が情報発信をしたりするなど保護者や地域に対して体験活動の意義を伝える。
- 体験活動の目標を設定、評価し、次年度の計画に生かす。

※参考資料:
「島根の子どもたちに素敵な体験と出会いを」
平成20年3月　島根県教育委員会編

事例紹介等

平成21年度豊かな体験活動推進事業　推進校
●農山漁村におけるふるさと生活体験推進校
※3泊4日の農山漁村における長期宿泊体験活動を行っています。

(例)奥出雲町立三沢小学校体験活動プログラム
隠岐島前地区での体験活動
- 魚釣り
- するめ作り
- 海洋性スポーツ体験
- あまんぼう乗船
- サザエカレー体験
- 民謡体験
- 磯遊び

〈するめ作り〉

〈磯遊び〉

問い合わせ先

県指定の自然体験活動、宿泊体験活動受入地域

●邑智郡田舎体験交流協議会
(邑南町、美郷町、川本町)
邑南町役場定住企画課
TEL 0855-95-2565

●浜田市ツーリズム協議会
(浜田市)
浜田市役所観光振興課
TEL 0855-22-2612

●隠岐島前子育て島協議会
(西ノ島町)
西ノ島町役場観光商工課
TEL 08514-7-8777

メニュー

薬物乱用防止教室

学校編　家庭編　地域編

効果

●各学校で、専門家を招いての薬物乱用防止教室を開催することで、薬物乱用防止に関する指導の充実を図ることができる。

実践方法

警察職員、学校医、学校薬剤師、薬務行政担当者、薬物乱用防止指導員などの専門家を講師に招いて行う。

- ●学級担任、教務主任、保健主事や養護教諭などを中心に、薬物乱用防止教室を企画する。
- ●薬物乱用を始めさせないことをねらいとする。
- ●関係機関に講師の依頼をする。

事例紹介等

雲南市立吉田中学校

【事前】

- ●雲南警察署に講師派遣を依頼する。
- ●講師決定後、講師と当日の運営方法や指導内容等について打ち合わせを行う。

【当日】

- ●全校生徒を対象に開催。
- ●雲南警察署薬物犯罪捜査担当の方が、薬物乱用の現状、「薬物に関する問題は、身近に潜んでいる問題である」ことなどを説明。
- ●VTRにより、薬物を乱用するとどうなるのかについて学習する。
- ●質疑応答。

【事後】

- ●学習後の感想を書く。
- ●学校だよりで、保護者・地域へ教室の様子を紹介する。

問い合わせ先

●島根県薬事衛生課
連絡先
TEL 0852-22-5259
FAX 0852-22-6041

●島根県警察本部
刑事部組織犯罪対策課
連絡先
TEL 0852-26-0110

●県内各警察署

●島根県教育庁保健体育課
健康づくり推進室
連絡先
TEL 0852-22-5425
FAX 0852-22-6767

メニュー

学校に野菜ソムリエがやってくる！

学校編　家庭編　地域編

効果

- 子どもたちが野菜と果物の魅力を知ることができる。
- 野菜と果物の種類や旬、食べ方のバリエーション、栄養価、保存方法を知ることにより、野菜と果物に興味をもつことができる。

実践方法

1. 「ベジフルコミュニティしまね」に野菜ソムリエの派遣を依頼する。
2. 野菜ソムリエと事前打ち合わせをする。
3. 野菜ソムリエをゲストティーチャーとして招き、野菜と果物のもつ魅力について学ぶ。
4. 地場産物の活用について意識化を図る。

事例紹介等

大田市立第一中学校

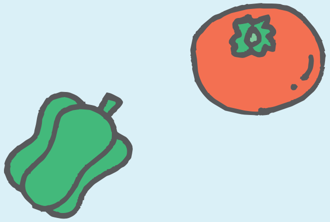
- 1年生4クラスを2つに分けて1時間ずつ学ぶ。
- 「旬の野菜のひみつ」
  ー冬野菜博士になろうー
  人間の体のリズムと旬の野菜のつながりなどについて学ぶ。
- 野菜のことを知らないで買うよりも知った上で買う方が楽しい〈選ぶ楽しさ〉を 学ぶ。
- 野菜の煮込み料理を作る。

ベジフルコミュニティしまねのメンバー

松江市	8人	斐川町	3人
出雲市	2人	大田市	1人
浜田市	2人	益田市	1人
吉賀町	1人	（H21.9月現在）	

問い合わせ先

- ベジフルコミュニティしまね
  代表　有田　学氏
- ベジフルコミュニティしまねブログ
  http://sana5vegefru.blog36.fc2.com/



- 島根県教育庁保健体育課健康づくり推進室
  連絡先
  TEL 0852-22-5425
  FAX 0852-22-6767

メニュー

みんなニコニコ食育活動②

学校編　家庭編　地域編

効果

- 自分たちの住む地域の郷土料理に関心をもつことができる。
- 栄養のバランスの取れた弁当を自分で作ることができる。

実践方法

- 地域食を活用して、子どもの心と体を育てる活動を展開する。
- 効果的な食育活動を展開するために、体験活動を取り入れる。
- 校内職員・保護者・関係機関との連携を図り食育の推進に取り組む。

部活弁当を作るぞ！（食育推進研修での取組）

事例紹介等

実践例1：大田市立温泉津中学校の取組

- 温泉津について調べよう！
- 温泉津の郷土料理とその良さについて知ろう
- マイ角寿司型を作ろう！
- 郷土料理でおもてなし

実践例2：益田市立西南中学校の取組

- 『子どもだけで作る弁当の日』

　ステップ1　主食・副菜・主菜について学習する。
　ステップ2　自分の作りたい弁当を紙に描く。
　ステップ3　自分の作りたい弁当を紙や粘土で作る。
　ステップ4　自分で弁当を作る。

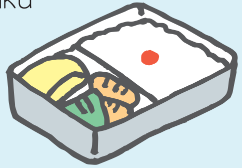
実践例3：川本町立川本小学校の取組

- 給食を「生きた教材」にするための取組
- 『子どもだけで作る弁当の日』
- 校内職員・保護者・関係機関との連携を生かした取組

問い合わせ先

- 大田市立温泉津中学校
  TEL 0855-65-2563
  FAX 0855-65-2741
- 益田市立西南中学校
  TEL 0856-29-0013
  FAX 0856-29-0013
- 川本町立川本小学校
  TEL 0855-72-0329
  FAX 0855-72-0807

その他の食育関係の資料提供は、保健体育課健康づくり推進室HPに掲載
http://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku



メニュー

しまねっ子!元気アップ・ソング で運動プログラムをつくろう!

学校編 家庭編 地域編

効果

●子どもたちに運動を作る楽しさを味わせながら、体力向上を図ることができる。

実践方法

●しまねっ子!元気アップ・ソング

「じょうぶな根っこ しまねっ子」CD(全5曲)の中から、1曲を選び、運動プログラムを作る。

①ハイテンポ	1分34秒
②スローテンポ	1分56秒
③ハイテンポ(合図付)	1分34秒
④スローテンポ(合図付)	1分56秒
⑤ハイテンポ(歌付)	1分34秒

●作った運動プログラムを使って体力つくりをする。

事例紹介等

雲南市立寺領小学校

実践事例

●リズム運動A

一人踊りで構成。幼児から大人まで簡単に踊ることができる。

●リズム運動B

二人組の自由隊形で構成。異学年や親子でも楽しく踊ることができる。

●リズム運動C

3人から5人が連手して踊る。「根や幹が広がり、伸びる様子」を表現。

活用例

●CD①をBGMにしてランニング

●CD③を使ってサーキット・トレーニングづくり

●CD⑤をスポーツ集会の始めの会で合唱

問い合わせ先

詳しくは、

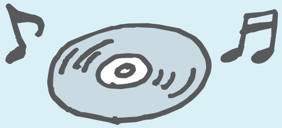
●島根県教育庁保健体育課
学校体育・競技スポーツ振興グループ
TEL 0852-22-5426
FAX 0852-22-6767

実践事例①を収録した「じょうぶな根っこ しまねっ子」CD(リズム運動A~C入り)は、平成22年3月に公立小中学校に配付済み。

合唱:松江市立宍道小学校合唱部

振付:梶谷朱美さん

(H21年度雲南市立寺領小学校教頭)



メニュー

少年自然の家の体験活動を活かして「総合単元的な道徳学習」を展開しよう！

学校編　家庭編　地域編

効果

●集団宿泊体験活動を踏まえて、さまざまな道徳的価値に気づき、道徳の時間をさらに充実させることができる。
●感じたことを発表したり、作文や俳句などで表現したりすることにより言語活動の充実を図ることができる。

実践方法

●体験活動と道徳を関連付け、道徳的価値を深めたり、道徳の時間に深め合った道徳的価値を実践に結びつけたりする。

❶総合単元的な道徳学習でめざす子どもの姿をはっきりさせ、ねらいを決める。

❷関連付ける教科等や体験活動を選定する。

❸「教科等」「道徳の時間」「日常の活動と家庭との連携」「児童生徒の意識の流れ」などの単元構想図を作成し、共通理解を図る。

【配慮事項】
※学習のどの場面で何をねらうのか、「ねらい」を焦点化して活動に取り組む。

事例紹介等

【益田市立桂平小学校】
総合単元「自分向上プロジェクト」
～“たくましい心をもった子ども”をめざして～

❶自分を見つけて磨きをかけよう（道徳・心のノート）
❷こんな自分を変えたいな（学級活動）
自然の家での研修を通して自分の変えたいところはどこだろう？
❸美濃小学校との結団式（総合的な学習の時間）
- あいさつ
- 仲間作り
- 班活動、スタンツ練習

❹伝え合おう、自然の家でがんばりたいこと（国語・スピーチ）
❺自然の家宿泊研修（総合的な学習の時間）
❻研修を振り返ろう（総合的な学習の時間）
- 体験したことをプレゼンテーションソフトにまとめよう

❼自然の家の人に手紙を書こう（国語）
- 心に残ったことを川柳にして

❽自然の家、思い出発表会（総合的な学習の時間）
- 朝会で発表しよう
- 授業公開日で発表しよう

問い合わせ先

●島根県立少年自然の家
TEL 0855-52-0716
FAX 0855-52-0707

●益田市立桂平小学校
TEL･FAX 0856-29-0019

＜少年自然の家での
やぐらづくり活動＞

学校編 家庭編 地域編

メニュー

レッツ・チャレンジ「ふるさと体験」〜そうだ サン・レイクに行こう!!〜

効果

●豊かな自然や周辺の施設等を活用した、体験活動（自然体験・文化体験・社会体験）を通して「感じる、気づく」等の感性を培い、生きる力を育む。

実践方法

●長期休業中や土日に宿泊体験

●サン・レイク周辺の（ひと・もの・こと）を活かした体験活動

●ふるさと「島根」を感じる活動

*自然体験活動を、自分探し、友だちづくりに
*子どもたちに自主性や、協調性を
*自らの力を試す、未知なる体験を

●親子を対象に自然や環境について学ぶ活動

*サン・レイクで深める親子のふれあい

☆学校で、地域で、家庭で利用できます!☆
〜まずはお気軽に御相談を〜

〈サバニ〉

〈BATADENPRO〉

事例紹介等

「サマーチャレンジ」（夏楽校）

●夏季休業中の長期宿泊研修〈小学校高学年〉
*サバニ（大型カヌー）体験、野外炊飯、わくわくウォーク等

「キッズチャレンジ」（冬楽校）

●冬季休業中の2泊3日の宿泊研修〈小学校低学年〉
*施設内探検、餅つき体験、昔の遊びなど

「あつまれ元気ッズ」

●秋から冬にかけての1泊2日のお泊まり体験〈幼稚園、保育所年長児〉
*巨大パズルに挑戦、館内探検など

「サン・レイク楽校」

●悩みや不安を抱えている子どもたちの体験広場
*サバニ（大型カヌー）体験、登山、宍道湖周辺ウォーク等

「にこにこ土・日」

●しまね家庭の日に合わせた親子の体験活動
*サバニ（大型ｶﾇｰ）体験、創作活動、親学講座など

☆その他、各種研修に対応しています!
風力発電所見学、BATADENPROなど

問い合わせ先

●島根県立青少年の家
〈サン・レイク〉
〒691-0074
出雲市小境町1991-2
TEL 0853-69-1316
FAX 0853-69-1016
http://www.pref.shimane.lg.jp/seishonennoie/

学校編 家庭編 地域編

メニュー

ふるまい向上プロジェクト

効果

●乳幼児期からの教育や養育の環境を充実させ、子どもたちの規範意識やコミュニケーション能力を高め、基本的な生活行動や生活習慣を定着させることができる。

実践方法

ふるまい向上推進県民運動として展開

【子どもたちには】

1. 自然体験や社会の中での実体験を重視する。（地域とのかかわり、家庭での社会行動）
2. 生活リズム、食など生活習慣を改善する。
3. 過度なメディア接触を回避する。
4. 世代間交流の場を設定する。
5. 手伝いや清掃活動を推奨する。

【親世代には】

1. 多様な親子行事や催事への参加を呼びかける。
2. 子育てについての不安を除去する。
3. スキンシップ、厳しさと優しさの意義を啓発する。
4. しまね家庭の日（毎月第3日曜日）の行動を推奨する。

※この事業における「ふるまい」とは、「礼儀、作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、躾、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやり」の総称。

事例紹介等

●**幼小連携講座**
幼保小連携に重点を置いた講座を実施し、小学校への円滑な接続を図る。

●**小1プロブレム対策事業**
幼稚園や保育所の担当者と小学校低学年の教員が情報交換や協議等を行い、幼児教育から義務教育への円滑な接続を図る。

●**親学プログラム普及･開発事業**
親の学びを支える親学プログラム（指導者用手引き書）を普及し、親学ファシリテーターを養成する。

●**公民館ふるまい向上プログラム**
公民館関係者向け研修を開催したり、公民館単位の学習･啓発活動に助成したりする。

●**乳幼児からの生活習慣づくり事業**
モデル地域を指定し、実践研究に取り組むとともに、事例発表会を行ったり啓発資料を配付したりし、普及を図る。

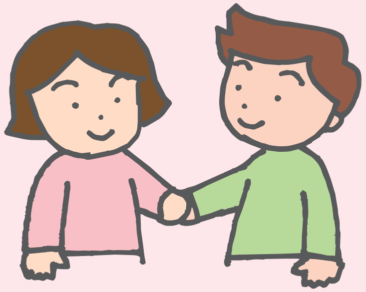
●**しまね教育の日フォーラムの開催**
ふるまい向上に係る取組の総括と県民への周知を図る。

問い合わせ先

●島根県教育庁義務教育課
TEL 0852-22-5421

●島根県教育庁社会教育課
TEL 0852-22-5428

●島根県教育庁保健体育課
TEL 0852-22-5426



メニュー
ゲルマニウムラジオをつくろう！

学校編 家庭編 地域編

効果
- 家族で楽しく、簡単な電気工作をすることができる。
- 自作ラジオで聴いた感動を味わうことができる。

実践方法

●部品を準備する。
- ゲルマニウムダイオード（1N60）
- AM用単連ポリバリコン
- コイル（マイクロインダクタ:330μH）
- クリスタルイヤホン

※電子部品取扱店で入手できる。
（全部品を1000円以内で入手できる）

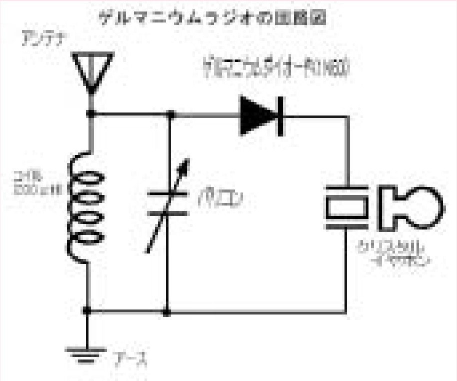
●電気はんだごてを用いて、回路図のように接続する。
（注）ゲルマニウムダイオードには方向性があるので注意する。

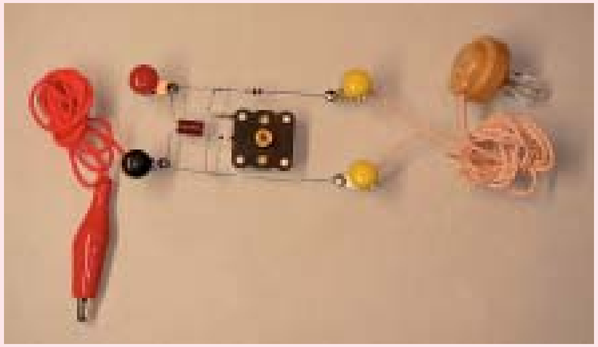
☆小型端子を使うことにより、はんだ付けをしない方法もある。

☆アンテナを工夫して感度をよくしてみよう。

☆電気はんだごてがない場合は、学校に相談してみよう。

事例紹介等



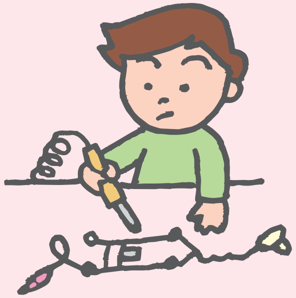


問い合わせ先

●島根県教育庁義務教育課
TEL 0852-22-5421

【参考となるHP】
- 「ゲルマニウムラジオ」で検索する。

- 電気はんだごては学校を通じて出雲科学館から借りることができる。



メニュー

家読(うちどく)!~本はともだち、みんなで読もう、みんなで話そう!~

学校編 家庭編 地域編

効果

●家庭で読書の時間をつくり、読書を通したコミュニケーションを図ることで、家族の絆がさらに深まる。

実践方法

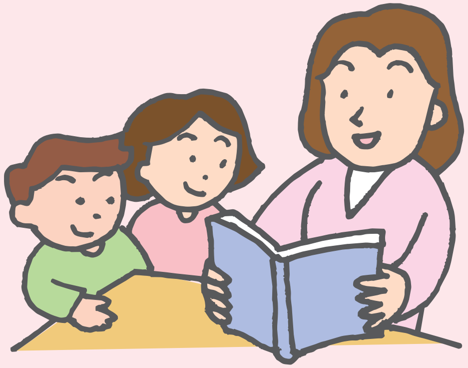
家読(うちどく)とは・・・「家庭での読書」の略です。「家庭で読書の習慣を共有」し、「家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話し合う」ことが基本です。

難しいルールはありません。今日から家族で本について話し、夢を語り合いましょう。
まずは、家族で簡単な約束事を決めて実践してみましょう。

例えば・・
1. 同じ本を読む
2. 読んだ本について話す
3. 感想ノートを作る
4. 自分のペースで読もう
5. 家族文庫をつくる　　など・・・

事例紹介等

家読は単に本を読み合う、という活動でなく、家族の会話により家族の絆を深め、家庭が子どもを優しく包む空間となることを目指した活動です。
物語を読み合うだけでなく、バスケットボールの本を家族で読み合い、語り合い、「島根スサノオマジック」の応援に出かけるのだって、家読になるのです。



問い合わせ先

●島根県教育庁社会教育課
TEL 0852-22-5429
FAX 0852-22-6218

●島根県立図書館
TEL 0852-22-5725(代表)
FAX 0852-22-5728

学校編　家庭編　地域編

メニュー

みんな知ってる？ 県立図書館の団体貸出！

効果

●学校や保育所、公民館などの蔵書が量的･質的に充実する。
●図書を活用した授業や行事を行うことができ、その内容の充実が期待できる。

実践方法

●利用したい団体は、島根県立図書館館外奉仕室（松江）か西部読書普及センター（浜田）に直接来館し、借りたい図書を選ぶ。

●学校、公民館、幼稚園、保育所、地域文庫等、原則、読書に関わる団体は利用可能。
※初めての方は問い合わせをする。

●読み物、絵本、調べ学習用図書のほか、読書会や学校の授業等で同じ図書を複数利用できる「グループ用図書」の貸出も可能。

●1団体　3ヶ月間、100冊以内貸出。
直接来館し、返却する。（返却ポスト利用は不可）

実践例

●学校、学級文庫として利用。
担任の教諭が春夏冬の休みの時期に、貸出図書の交換を行う。

●学校司書が教員の求めに応じて、授業に利用される図書を借りる。
学校図書館活用教育に一役。

●公民館主催の企画事業に、関連図書を利用。

●読書好きの友人同士で読書会結成。
地区の公民館を会場に、県立図書館で借りた本を話題の種にする定例集会を開催。
年に1度は文学散歩を兼ねた旅行も企画。

問い合わせ先

●島根県立図書館
館外奉仕室
TEL 0852-22-5729

●西部読書普及センター
TEL 0855-23-6785

学校編 家庭編 地域編

メニュー 親としての力をつける「親学プログラム」(しまね学習支援プログラム)

効果
●乳幼児、小・中学生をもつ親同士が、親としての役割や子どもとの関わり方について、参加者相互の交流を図りながら主体的に学習することができる。

実践方法

●「親学プログラム」とは?
親学プログラムは、公民館職員や子育て支援センター職員、保健師、学校教職員等がファシリテーター(学習支援者)となり、保護者を対象に実施する参加型学習の標準進行手引き書。

※方法
ファシリテーターの進行により、アイスブレイクや個人ワーク、グループワーク、ふりかえりやわかちあいを通して、親としての役割や子どもとの関わり方を学ぶ。

※内容
「親としての心構え」「親子のコミュニケーション」「生活リズム」「しつけとルール」「安全と健康」「遊びと体験」「個性と夢」の7テーマ別のプログラムを用意している。

実践例

●想定される学習の機会
- 公民館等での親学講座(家庭教育支援事業)
- 就学時検診における学習会
- 子育て支援センターでの研修会
- 保育所、幼稚園での保護者会
- 小、中学校での学級懇談会やPTA研修会

●親学ファシリテーターの養成
島根県立東部・西部社会教育研修センターでは、親学プログラムを進行できる「親学ファシリテーター養成講座」を実施します。島根県内各地域で、多くの方々が活用できるように支援します。

●親学体験講座の実施
市町村・関係機関等の要望に応じて「親学プログラム体験講座」を実施します。お気軽に御連絡ください。

問い合わせ先

●島根県立東部社会教育研修センター
TEL 0853-67-9060
出雲市小境町1991-2
http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/

●島根県立西部社会教育研修センター
TEL 0855-24-9344
浜田市野原町1826-1
http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/

※HPからプログラムをダウンロードできます。

学校編　家庭編　地域編

メニュー

教員を目指す大学生が学校や地域をサポートします

効果

●活動の幅を広げたり、よりきめ細やかなサポートを受けたりすることができる。

実践方法

●島根大学教育学部生が「1000時間体験学修」の一環として、学校や地域に出かけ、学習支援を行ったり、子どもたちと一緒に活動をしたりする。

●「島大ビビットひろば」を主催し、島根大学教育学部に小学生を招き、それぞれの専門性を生かしたワークショップを開設する。

〈島大ビビットひろば〉

実践例

●学校での活動

①少人数学習支援、適応指導教室支援

②校外学習の引率補助

③特別支援員、理科支援員

●地域での活動

①公民館行事のサポート

②放課後子ども教室のサポート

③放課後児童クラブのサポート

④子ども会行事のサポート

⑤スポーツクラブ等のコーチ

⑥音楽指導（合唱・吹奏楽）

⑦科学実験教室アシスタント

●島大ビビットひろば

<これまでの活動例>

①工作（木工、エコ工作）

②英語活動

③調理活動（パン、うどん）

④レクリエーション活動

⑤軽スポーツ

問い合わせ先

●島根大学教育学部
附属教育支援センター
TEL 0852-32-9836
E-mail:aces@edu.shimane-u.ac.jp
http://www.aces.shimane-u.ac.jp

学校編 家庭編 地域編

メニュー

公民館がはぐくむ地域の絆 ～実証!「地域力」醸成プログラムを通して～

効果

●住民自らが地域の課題を掘り下げ、その課題解決に向けて幅広い世代の住民を巻き込みながら地域に元気を取り戻す。

実践方法

●公民館は人づくり・地域づくりの拠点となっています。

【実証!「地域力」醸成プログラム】
公民館の培ってきたノウハウを、具体的な活動を通して実証してもらい、「地域力」の重要性について世論喚起することを目的とする。

- 地域ぐるみの子育て
- 伝統文化の伝承
- 災害時の避難誘導
- 世代間交流
- 安心安全なまちづくり
- 学社融合　　など

H19年度選定	モデル公民館	12ヵ所
H20年度選定	モデル公民館	12ヵ所
H21年度選定	モデル公民館	13ヵ所

実践例

中学生&高校生が主役
～私たちの「ふるさとづくり」～
松江市玉湯公民館

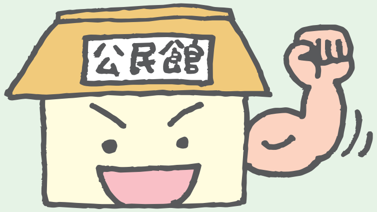
●「還りたくなるふるさとづくり」をめざし、地元の高校生活動グループ「たまゆめんばーずくらぶ」(たまめん)を立ち上げる。

- 毎月一回の定例会
- たまゆ文化祭　模擬店
- 星空観察会
- 小学生キャンプのサポート
- 広報誌「たまめんNEWS」発行　など

●「たまめん」が地域の行事に参画することで企画にも幅が広がっている。また、若者の参加により住民を巻き込む契機が増え、地域活性化につながっている。

問い合わせ先

●島根県教育庁社会教育課
TEL 0852-22-5429
FAX 0852-22-6218



メニュー

地域の良さを知り、地域へ貢献しよう

学校編　家庭編　地域編

効果

●学校と地域の連携が深まり地域を愛する心が育つ。
●地域の方とコミュニケーションを深めることで、人間力を高めることができる。

実践方法

●生徒が販売実習を行う。

- 学校と地域が連携協力し、地元名産品等の販売実習を行う活動。

●地域と交流活動を行う。

- 地域の公民館と連携した交流会や地域の方に対してのパソコン講習会を実施。

〈交流会〉

〈パソコン講習会〉

実践例

●島根県立松江商業高等学校

①地元企業と連携し、生徒が株主となってネットショップを株式会社形態で運営しています。

②地元商店街の活性化につなげる目的で、地域に出かけ、地域の人と一緒になり、商品の販売実習や商業教育の活動等の紹介をする課外授業を行っています。

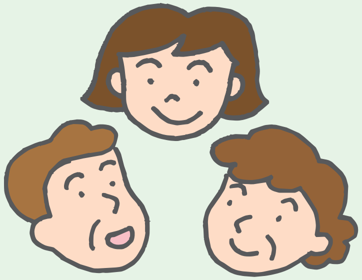
●島根県立浜田商業高等学校

①公民館と連携し、地域の子どもたちと「子どもキャンプ」・「夏祭り」・「しめ縄づくり」などの企画・運営をしています。

②「浜商生が教える確定申告」と題して、Web確定申告（e−TAX）の入力の講習会を行っています。

③地元ケーブルテレビと連携し、地域の活性化につながる内容の番組制作を行っています。

問い合わせ先

●島根県立松江商業高等学校
TEL 0852-21-3261

●島根県立浜田商業高等学校
TEL 0855-27-0064